

平成29年度第1回
八溝山周辺地域定住自立圏共生ビジョン懇談会会議録

開催日時	平成29年7月20日(木) 午後1時30分～午後3時
開催場所	大田原市市民交流センター視聴覚室
出席者	出席委員16名 欠席委員7名 各市町担当者8名 ※オブザーバー 事務局6名

1 挨拶 大田原市永山副市長

(要旨)

- 八溝山周辺地域定住自立圏構想に取り組み6年が経過し、これまで、いかにして交流人口を増やし、地域経済、地域自体の活性化を実現していくかという視点で事業を展開してきた。
- これまでの取組として、結婚促進事業、グリーン・ツーリズム推進事業、スポーツイベント等実施事業の3事業を紹介。
- 総務省の定住自立圏構想推進要綱改正に伴い、PDCAサイクルを構築することとなった。
- 委員の皆様の幅広い知識や経験を基にした、ご意見、ご提案をいただきたい。

2 内容

(1) 八溝山周辺地域定住自立圏におけるPDCAサイクルの構築について

(事務局説明要旨)

平成28年9月23日付けで総務省の定住自立圏構想推進要綱が改正され、各圏域において、PDCAサイクルを構築することが求められている。

具体的には、共生ビジョンの中に各圏域の将来像の部分に定住自立圏の取組の結果、実現されるべき中長期的な将来の人口や高齢化率の目標を掲げることと、協定に基づき実施する各施策、事業単位で成果指標(KPI)を設定することとなる。

八溝山周辺地域定住自立圏の考え方としては、中長期的な将来の人口、高齢化率については、定住自立圏の取組の結果を考慮し算出することが困難なため、構成市町が策定した人口ビジョンの数値を積み上げた目標値としたい。

【 圏域人口、圏域高齢化率の目標設定案 】

○圏域人口

(単位：人)

2000年(H12年)	2010年(H22年)	2015年(H27年)	2025年(H37年)	2040年(H52年)
296,467	292,068	281,941	273,486 (266,450)	253,017 (231,398)

○圏域高齢化率

(単位：%)

2000年(H12年)	2010年(H22年)	2015年(H27年)	2025年(H37年)	2040年(H52年)
19.39	23.60	27.55	32.12 (33.62)	35.80 (38.34)

※ () 内は将来推計人口

各施策、事業単位の成果指標（K P I）の設定については、現在、調整中のため、第2回共生ビジョン懇談会でお示ししたい。

なお、共生ビジョン懇談会の役割として、これら成果指標等の達成状況等を考慮することが追加されている。

⇒ 質疑等なし

将来の人口、高齢化率の目標については、事務局説明のとおりとし、各施策、事業単位の成果指標（K P I）については、第2回共生ビジョン懇談会で検討する。

(2) 平成29年度八溝山周辺地域定住自立圏連携事業について

(事務局説明要旨)

・ 広域観光推進事業

広域観光ルートを紹介するアプリの開発、首都圏書店でのブックカバーを使った圏域PRを予定している。

・ 圏域内特産品販路拡大事業（産業文化祭）

大田原市産業文化祭に連携市町からの出店を依頼するとともに、奥久慈大子まつりに大田原市から出店を予定している。

・ 圏域内特産品販路拡大事業（スタンプラリー）

道の駅等を舞台にしたスタンプラリーを夏季と冬季に行う。

・ 道路インフラ整備促進の要望活動等

H27～28に実施した交通ネットワーク調査報告書の概要版の作成を行う。

・ 結婚促進対策事業

各市町の地域資源を活かした出会いイベントを4回開催する予定。

- ・スポーツイベント等実施事業

サッカー、野球、ソフトボール、剣道教室を開催する。

交流大会として、小学生ミニバスケットボール大会、古希・還暦野球大会（開催済）を開催する。

- ・職員交流実施事業

大田原市と大子町とで職員の人事交流を実施している。

○質疑等

会 長

事務局の説明に対し、質問や確認があればお願いします。

委 員

スポーツ教室では、ケガをしないための講習は含まれているのか。高齢になってもスポーツに親しむためにはケガをしないことが大切なことだと思う。

また、圏域内で各種イベントが開催されているが、日程の調整がされていないため、重複した日程で、お客様の引っ張り合いをし、回遊性を損ねていると感じている。こういう機会をいただいたので、日程の調整についてお願いしたい。

それと、同一イベント、例えば、歩け、歩けのイベントなどを健康運動月間として、白河などを巻き込んで、ねぶたが弘前、青森、五所川原で行われているように全体として情報発信するなどして取り組んでいただきたい。

事務局

スポーツ教室については、全て冬季に実施しています。ウォーミングアップを入念に行うことを通して、ケガ防止についても触れていますが、そういう点についても指導していただけるよう講師に伝えたいと思います。

イベントの日程の調整については、正直できていないので、今後、上半期、下半期或いは4半期ごとに情報を共有し、調整できるものから行いたいと思います。

白河市との連携につきましては、那須塩原市を交え定住自立圏の中心市3市で意見交換の場を設けたいと考えています。

(3) 意見交換

(事務局説明要旨)

共生ビジョン懇談会で平成26年度から出された意見、提案について、その進捗状況などをまとめ、主なものを説明した。

- ・医療 ドクターヘリの導入については多方面から検討作業を行っている。
- ・観光 観光推進・地域経済の活性化を図るためスタンプラリーを実施する。文化財を使った誘客促進について検討している。
- ・自転車 サイクルピットの設置を進める。数年後に八溝山周辺でのポタリングイベントの開催を検討している。
- ・グリーンツーリズム 昨年度、圏域内の農家を集め、民泊の説明会を開催した。
- ・特産品 各市町のイベントへの相互出店を進めたい。

道の駅店長級会議を開催し、八溝特産弁当についての検討を行ったが、クリアすべき点が多く、実現までには時間がかかると感じた。

- ・有害鳥獣 八溝山定住自立圏としての事業は実施していないが、別の形で広域連携の取組は行っている。
- ・移住促進 大田原市単独となるが、昨年度から移住促進の取組を始めた。広域連携での移住促進の取組を進めたい。
- ・公共交通 八溝山定住自立圏としての事業は実施していないが、那須地域定住自立圏で地域公共交通網形成計画の作成等に関する協議を行っている。

○意見交換

会 長 | ここから意見交換に入りたいと思いますが、個別の事業に対し、バージョンアップというような意見でも結構です。分野を特定しませんでしたので、ご発言をお願いします。

委 員 | 定住自立圏の始まりは、人口減少に伴う、少子化、高齢化そして地方の安定経営ということだと思いますが、今後、行政の人員や公共施設の負担、近未来の整備について税負担を考えながら、並行してやっていかなければいけないと思う。データを示しながらどこをどう改善していくのかということが必要だと思う。

それと、人口減少、少子化、高齢化に伴う今後の自治会のあり方、情報の整備・伝達について新たなシステムなどを採り入れることなど、検討していく必要があると思う。

会 長 | 色々なご提言をいただきながら、一問一答ではなく、最後に事務局から回答をいただく形で進めたいと思います。

会 長 | 結婚支援に関して、栃木県の動きとして県北に相談センターを設立するという動きがあったと思うが、どうなっていますか。

事務局 | とちぎ結婚支援センターが宇都宮市内にでき、登録希望者が先月末で約1,700人いますが、パソコンを使って登録しなければならず、1,100人しか登録ができていない状況です。希望者は増えているので、端末を置き、登録ができるサテライトを県北と県南にということになり、那須塩原市と小山市が手を挙げ、今年度中に設置されるという状況です。

委 員 | 八溝山周辺地域定住自立圏としてのパンフレットができたが、この地域がどういう括りになっているのかをうったえないとインパクトがないと思う。このエリアに来たくくなるようなキャッチがない。

とちぎディスティネーションキャンペーンが展開されているが、八溝山定住自立圏が相乗りできないか。「本当の日本はここにある」とか「残っているのはこのエリア」など交通の便が悪いことをおしてまで行きたくなるよううったえるフレーズみたいなものがあつた方がいい。

観光に関して、広域連携は図らないといけないと思う。プレDCで日光は4から5割、足利では2割の観光客が増えていると聞いているが、那須エリアはあまり増えていない。

八溝山定住自立圏には、福島、茨城も入っているが、とちぎDCに相乗りできないか。

会 長 DCと行政の関わりは。市町村がDCに関われることはあるのか。

事務局 独自にJRとタイアップして、運行や広告事業に相乗りする形。

会 長 テーマや統一したイメージが必要だと思う。以前、栃木放送で「八溝そば街道」特集していたが、そういったテーマに沿って街道づくりを進めれば印象に残るのではと思う。あれもこれもという幕の内弁当的な発想だと、印象に残らないので、テーマを絞って取り組んでいければ。DCとの相乗りについても探っていただければと思う。

委 員 観光パンフレットができたが、掲載されているのは公共的な施設だけである。那須地区には様々な歴史ある民間の施設もあり、那須町であれば、那須ハイランドパークやりんどう湖など。行政が発行するパンフレットに民間施設を掲載することができるのかということもあると思うが、民間施設を含め、魅力ある施設を掲載することが必要ではないかと感じた。

会 長 その辺の基準的なものはあるのか。

事務局 那須町、那須塩原市にはたくさんの施設があって、選ぶことに迷われたのだと思います。委員ご指摘のように、民間の施設が多くあり、パンフレットもたくさんございます。そういった民間施設とタイアップし、パンフレットを抱き合わせで配ることが効果的なのかなと思います。

委 員 以前、北栃木広域連絡協議会で全体のマップを作っているので今後マップを作成する際の参考にいただければ。

委 員 八溝山周辺の携帯電話のアンテナ設置はどのような方向で進んでいるのか。

事務局 現実的に人が住んでいないところに企業が進出しても採算性がとれないので交渉は進んでいませんが、もう一度改めて庁内の担当課とどういった道があるのか考えてみたいと思います。

委 員 携帯電話に関して、最近のニュースで、山の遭難が多いため、ある拠点まで行けば携帯電話がつながるといったシステムが構築されていると聞いた。安全・安心を確保することは、観光誘客を図る上で重要ではないかと思うので、企業に働きかけていただければと思う。

委 員 スマートフォンのアプリを活用した広域観光事業を予定されているが、現在、栃木県の「とち旅」というアプリがあるので、重複して作る必要があるのかと思った。栃木県内であれば、そちらを使っていた方がいいと思う。

小さいエリアの案内となれば必要だが、広いエリアとなると、重なる部分も多くお客様は何を見たらいいのか迷ってしまうのかなと感じた。また、環境省の国立公園満喫プロジェクトで、国立公園内の名所や登山ルートを案内するアプリを2020年までに作る動きもあるので、重複する部分を整理して、エリアの強みを活かしていく方が、無駄がなくていいのでは。

6月に香港で旅行博があり、色々なパンフレットを配ったが、この(八溝の)パンフレットだけが残って配布に苦労した。行政の案内のようなパンフレットなので、せっかく作るのであればお客様目線で作った方がいい。

会 長 このパンフレットは誰をターゲットしているのか。絞ることが必要。

委 員 3県に跨る定住自立圏というのは他に類を見ないということで、どう交流できうるかということが重要。大田原市産業文化祭に各市町を招聘し、実際に来ていただいているが、領域を越えての交流が必要だと思う。例えば、大田原市のゴルフコンペを大田原市民限定とせず、那須塩原市の市民やほかの町の方まで広げるなど、何か協定みたいなものがあって、その協定に基づいて事業を展開していく。婚活であれば、一緒にイベントを行う、統合して行うなど。市の行事だから、他の市町の方はお呼びしないのではなく、少しずつハードルを低くしながら交流を進めていければいいと思う。

会 長 共生ビジョン懇談会自体は行政からできたものだが、メンバー相互でできるものであれば、行政に了解をとって行うものではないので、そういう(メンバー相互間の)動きも考えられると思う。

そういったときに、公的な申し合わせがあると民間団体も動きやすかったり、促進されたりすると思う。また、民間の交流、事業を後押しすることに繋がると思うので、市町長間の集まりの中でそういった宣言みたいなものは出せないのか。

事務局 即答はできないが、住民サービスをするときに、その対象は、まず、住んでいる方、そして勤務している方としていますが、そこにもう一つカテゴリーをつくり、八溝山周辺地域定住自立圏の圏域の方とすることは可能かと思えます。当然、それができる事業とできない事業はありますが。

民間の事業に関しては、費用助成となると厳しくなってくるが、ソフト的な部分を後押しすることは可能なので、大いに考えていきたいと思う。

会 長 補助というよりは、掛け声、雰囲気づくりをお願いしたい。

委 員 前にも申し上げたが、地元の茨城新聞に定住自立圏の成果が上がっていないという記事が出たと紹介させていただいた。これまでも会議に出席して、何を狙っているのか、インパクトが薄いと感じている。

大田原市産業文化祭については、昨年2店出店させていただいたが、本年度は4店くらい出店させていただきたいと思っている。

また、10月15日に開催する奥久慈大子まつりに大田原市から出店してい

ただけることになっているとの報告がありました。

7月21日から開催される那須烏山市の山あげ祭にユネスコ無形文化遺産に登録され、規模を拡大したいとのことで出店依頼があり、大子町からフードコートに5店出店することになった。

大子町は大田原市の商圏に入っているが、逆に大田原市の人に大子町にいかにして来てもらうかを考えると、小さなことから交流を進めていくことだと思う。今回、スラン普拉リーを行うとのことだが、大田原市と大子町とで、お互いの市、町に行き、お店のスタンプを3つ押ししてもらうとかそういうスラン普拉リーもいいのではと思った。

委員 自治会は任意加入の団体だが、栃木県内では約65%の加入率となっている。災害があった場合には、お互いに助け合うということが大事なことなのだが。高齢者も増え、自治会に入っていると何かと経費が掛かるということをする人もおり、また、入らない人も増えている。県にも要望し、何らかの働きかけをお願いしたいのだが、定住自立圏としても自治会加入の問題も取り上げていただければと思う。

委員 参考として情報提供をさせていただく。インフラ整備に関して、八溝に沿って、北関東自動車道の桜川から分岐して、茂木町、那須烏山市、那珂川町、大田原市、那須町を通過してあぶくま道に繋げるという構想で期成同盟会が立ち上がった。

ただ、道路整備より交流が先だと思っている。大子町の雛祭りは日本でも有数であり、日経プラスワン（何でもランキング・ご当地ひなまつり）で6位になった。素晴らしい観光資源が各地にあるので、それらを活かして、首都圏の方に行ってみたいと思わせる取組が必要。

会長 以上で意見交換を終了したいと思いますが、事務局から回答などありますか。

事務局 出されました意見の中から、人口減少に伴う公共施設の在り方については、各市町がどう考え、財政運営を行っているかをまとめ、次回お示しさせていただきます。

また、自治会の在り方については、各市町にどんな課題があって、加入促進の取組に関して良い事例がありましたら紹介させていただきたい。

5 その他

事務局連絡) 第2回八溝山周辺地域定住自立圏共生ビジョン懇談会は、9月21日(木)午後2時から大田原市市民交流センター視聴覚室で開催します。